

キャリアデザイン発表における ワード分析

宮内正臣

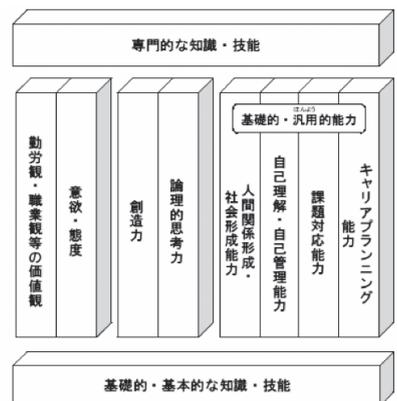
— 要旨

共通教養科目キャリアデザイン AB の最終レポート「キャリアデザイン構想」を AI テキストマイニングすることでキャリア観の変遷について分析した。また表現学部生だけを抽出し全学部との比較も試みた。2020 年低学年時の履修者が 2022 年に高学年となり、学生生活でどのように意識が変容したのか。ワードクラウド、単語出現頻度、ポジネガ分析、係り受け解析、文書要約、両者の二文書比較の結果として、低学年時には「就職」のためと狭義に捉えていたキャリア意識が、長期視点で「働くこと」を考える、短期視点として専門の授業、インターンシップ、資格取得と具体的な目標が表出された。高学年時には就職が身近となり、不安やストレスと向き合いながらもポジティブにキャリアを考えていることが明らかになった。キャリア教育は在学中には役立たないという定説に一石を投げられたのではないだろうか。「学ぶ」から「考える」「対話する」に変わっていった点も興味深い。

1. 背景

2011 年、大学設置基準の改正により「大学は、学生が卒業後自らの資質及び能力を発揮し、社会的及び職業的自立を図ることができるよう、その教育研究上の目的を踏まえ、教育課程及び厚生補導を通じて、必要な指導又は支援を図るものとする」とされ、大学の役割としてキャリア教育が据えられた。筆者は 2008 年に民間資格 CDA (Career Development Adviser)、翌年国家資格化された 2 級キャリアコンサルティング技能士を取得後、複数の大学でキャリアアドバイザーを務め、2018 年 4 月に共通教養科目「キャリアデザイン AB」の非常勤講師として着任した。大学でのキャリア教育に就職支援だけでな

図 1 「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素



(出所) 中央教育審議会 (2011) 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

く、社会的・職業的自立のために必要な資質能力の獲得を促す取り組みについて期待されてのことと考える。

図1の要素を集約すると、自己理解、職業理解、その他（労働市場、労働法、ワークルールほか）となり、筆者もシラバス構成にはそれらを加えている（シラバスの詳細は6に記載した）。

2. 問題意識と目的

こうして大学でのキャリア教育が始まったが、果たしてその目的は果たしているのか。濱中 2016「大学教育無効説をめぐる一考察」や本田 2018「文系大学教育は仕事の役に立つのか」が指摘してきたように、文系大学でのキャリア教育は意味がないのか。

低学年（1、2年生）と高学年（3、4年生）による最終レポートで使われたワードの違いを分析することで検証の一助としたい。2020年履修者のおよそ半数が2022年にも受講しているため、この年次比較を取り上げてキャリアデザイン観の違いについて考察した。また、表現学部生を抽出した場合に全体との差異があるのかにも着目した。

3. 対象と方法

対象は2020年後期にキャリアデザインB（1、2年生、以下低学年と表記する）を履修した学生30名（うち表現学部6名）と2022年前期にキャリアデザインA（3、4年生、以下高学年と表記する）を履修した学生62名（うち表現学部16名）の最終レポート。方法としてUser Local社のAIテキストマイニングによって分析をした。n数としては2021年の低学年履修者は106名であったのだが、前項で述べたようにパネル調査の意味合いから2020年を調査対象とした。

最終レポート課題はいずれも「今後のキャリア構想を200字以上で述べよ」、という記述式である。

4. 結果

以下、低学年（全学部、表現学部）、高学年（全学部、表現学部）の順で記す。最近メディア等の分析でよく使われるワードクラウド結果を冒頭に示し、単語出現頻度、ポジネガ分析、係り受け解析、文書要約を報告する。

また4-5では、二文書比較（全学部の低学年・高学年、表現学部の低学年・高学年、低学年時の全学部・表現学部、高学年時の全学部・表現学部）を行った。

見聞—広める (3.00)、所属—務める (3.00)、資格—取る (2.40)
 名詞—名詞 : 授業—受講 (3.33)、キャリアデザイン—在り方 (3.00)、
 授業—履修 (2.86)、インターンシップ—参加 (2.86)、
 キャリア—デザイン (2.50)、他者—説明 (2.00)、仕事—私生活 (2.00)

4-1-5 文書要約 (低学年、全学部)

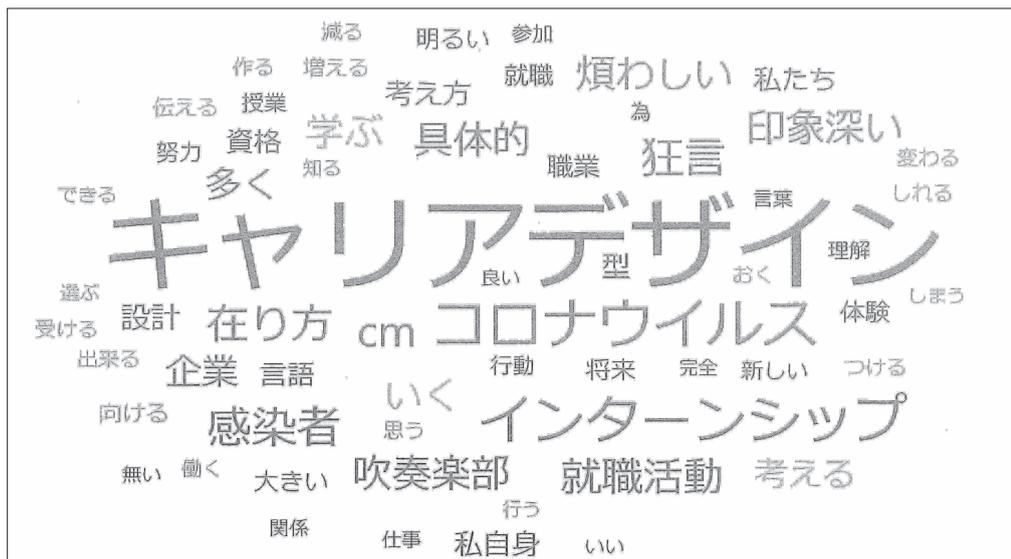
本節は AI による全体文書から頻出語、係り受け解析をもとに作成されたものである。5 行を要約抽出しているため、行間の繋がりが文章としては不適切であることはご容赦いただきたい。学生が考えるキャリアデザイン像として捉えている。

この授業を通して何でもいから目標を立てて行動していくことの重要性に気づくことができました。それは、フレッシュマンゼミで作った講義を実現してみることが今の私にできることである。授業を通じて、将来を考えること、またそれに向かうための知識や方法を学ぶことができました。大学院に進み、公認心理師としての資格を得たのちはカウンセラーを目指そうと思っています。この授業を受けていなかったら将来何をするのかまだ決まっていなかったと思います。

ゼミ活動や大学院への進学、公認心理師の取得など、遠い将来のキャリアではなく、身近なキャリアプランを立てていることに注目している。講義開始時にキャリアデザイン＝就職活動の準備、と捉えている学生たちの視野が広がった証左と言えよう

4-2-1 ワードクラウド (低学年、表現学部)

図3 キャリアデザインB (低学年) 2020年 表現学部



調査年がコロナ感染症拡大のためにオンライン講義であったため、コロナウィルス、感染者が大きく表示されているものと思われる。表現学部の特徴としては、狂言、cm (CM、コマーシャル)、吹奏楽部など具体的な名詞が挙げられている点である。

4-2-2 単語出現頻度 (低学年、表現学部)

名詞として、コロナウィルス (19.31) インターンシップ (18.48)、感染者 (7.79)。「在り方」(4.96) が特徴的であった。

動詞としては、学ぶ (0.82)、考える (0.41)。全学部に比べて考える、より、学ぶ、が若干スコアが高かったことはやや受動的であると言えよう。

4-2-3 ポジネガ分析 (低学年、表現学部)

ポジティブ 14.1%

ネガティブ 26.6%

全学部と比較して、ネガティブ表現が多くみられた。全体の文書を読む限り、それは将来への悲観ではなく、現在の自分を俯瞰しての表現と思われる。前節の「在り方」にも繋がるのかもしれない。

4-2-4 係り受け解析 (低学年、表現学部、数字はスコア値)

名詞ー形容詞：企業ー良い (0.67)、気分ー明るい (0.67)、卒業ー無い (0.67)、
意味ー無い (0.67)

名詞ー動詞：所属ー務める (3.00)、資格ー取る (2.00)、身ーつける (1.20)

名詞ー名詞：インターンシップー参加 (4.00)、キャリアデザイナーー在り方 (3.00)、
基本ー型 (1.00)、対策ー選び方 (1.00)、
コミュニケーションー上達 (1.00)

4-2-5 文書要約 (低学年、表現学部)

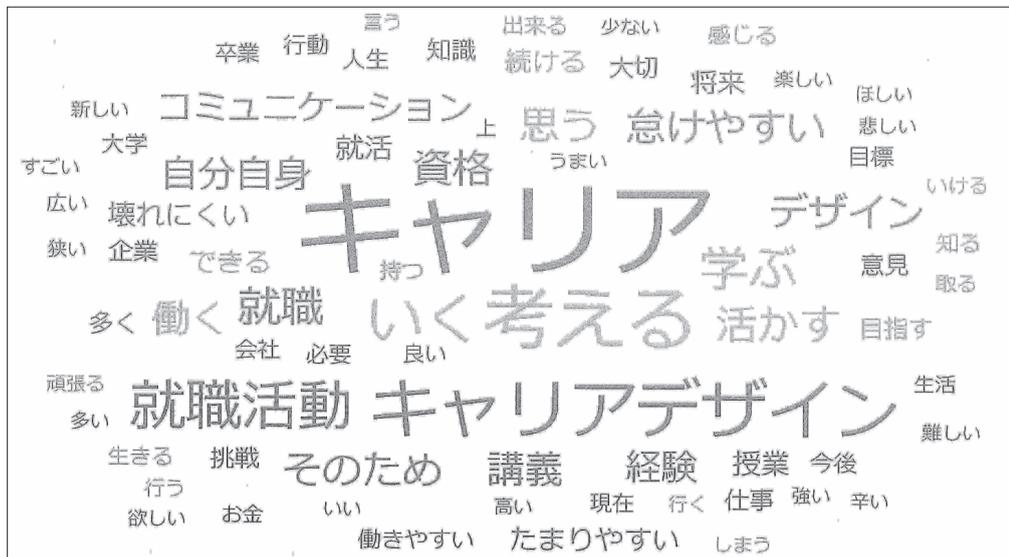
「いいところだったのに」と煩わしく思われることもあれば、「あのCM見るとなんか気分が明るくなるな」。基本の型を知っておけば、今後移り変わっていくキャリアデザインの在り方、考え方についていけると信じています。私は今学期から3年になるため、そろそろ就活の準備を始めていかなければならない時期だと考えている。その中で、この授業で学んだストレスに対するセルフケアの方法であったり、ポジティブ思考を積極的に実践していきたい。またキャリアデザインBを通して、自分の不得意分野である面接の対策や、企業の選び方を学んできた。

冒頭の一文がなぜ採択されたかは不明であるが、以下本講義を社会人になる準備として

位置づけ、具体的な面接対策、日常的に活用できるセルフケアやポジティブ心理学を挙げる学生が多かった。心理学の話を講義の随所に織り込んでいるが、表現学部生たちには新鮮であったのかもしれない。

4-3-1 ワードクラウド (高学年、全学部)

図4 キャリアデザインA (高学年) 2022年 全学部



考える、就職活動、が大きい。コミュニケーション、資格などは、やはり就職活動が影響していると思われる。

4-3-2 単語出現頻度 (高学年、全学部)

名詞として、就職活動 (63.93)、就職 (29.46)、資格 (20.07)。3.75 であるが「人生」も表出した。

動詞としては、考える (36.67)、学ぶ (16.45)、思う (7.92)。その他頻出語として、そのため (22.51) という方法やプロセスを考えている点にも注目したい。

4-3-3 ポジネガ分析 (高学年、全学部)

ポジティブ 15.4%

ネガティブ 15.2%

ポジティブ表現とネガティブ表現が拮抗している点が興味深い。

4-3-4 係り受け解析 (高学年、全学部、数字はスコア値)

名詞-形容詞：自己肯定感-低い (1.00)、余裕-無い (1.00)、

ストレス-たまりやすい (1.00)

修得、自分自身、磨く、が目につく。「たまりやすい」は文書全体を読むと、ストレスをため込みやすいととれる。全学部に対して、内面への気づきをコメントペーパー等から読み取れる。

4-4-2 単語出現頻度（高学年、表現学部）

名詞として、就職活動 (29.11)、自分自身 (4.92)、資格 (3.38)、意見 (2.95)。

動詞として、考える (3.81)、学ぶ (2.41)。

4-4-3 ポジネガ分析（高学年、表現学部）

ポジティブ 11.0%

ネガティブ 18.3%

全学部に比べて、内省している記述が多いためネガティブ傾向が多くなっている。ただこれは決して将来を悲観していることではない。

4-4-4 係り受け解析（高学年、表現学部、数字はスコア値）

名詞－形容詞：余裕－無い (1.00)、窓－狭い (1.00)、子供－欲しい (1.00)

名詞－動詞：意見－流す (2.40)、自信－持つ (2.40)、子供－生まれる (2.00)、
生活－送る (1.50)

名詞－名詞：キャリア－デザイン (3.00)、趣味－労働 (2.00)、学生－態度 (2.00)、
意見－主張 (1.50)、社会－自律 (1.20)、大学－卒業 (1.20)

4-4-5 文書要約（高学年、表現学部）

そのために、まずは様々なことを自分の言葉で言語化できるようにしたいと考えています。しかし漠然としたいことで何をしたらいいかどうしたらいいかなどを考えていなかった。自らのキャリアをデザインしていく上で思考することを放棄しないように努めようと思いました。私のこれからのキャリアはあまり想像できませんがアニメ、マンガといったサブカルチャーに関わる仕事がしたいです。それは授業の中で学んだお金の知識や法律関係のお話が強く影響しています。

全学部に対して、一会社員より専門性を求めているように感じる。ただ経済経営に見られる「起業」ではなく、小規模な「自営」のイメージを持っているようだ。ファイナンスの知識や法律も同様に考える。

4-5-1 全学部（低学年と高学年二文書比較）

①低学年だけの頻出語：

嬉しい、明るい、変化、公認心理師、悪い、美味しい、長い、客観、CM、司書、上

手い、人間らしい、印象深い、厳しい、取りやすい、持ちやすい、望ましい、正しい、
煩わしい、短い、若い、面白い、見る、試す、増やす

②低学年の頻出語：

いい、キャリアデザイン、授業、将来、新しい、難しい、楽しい、大きい、無い、う
まい、選択肢、様々、深い、職業、インターンシップ、よい、考え方、一番、受ける、
決める、つける、わかる、おく、作る、恥ずかしい、早い、浅い、広げる、増える、
伝える

③高学年だけの頻出語：

強い、苦手、高い、すごい、ほしい、悲しい、流す、からい、しづらい、たまりやす
い、とてつもない、もったいない、低い、住みやすい

④高学年の頻出語：

キャリア、経験、デザイン、上、就職活動、そのため、今後、意見、会社、就活、コ
ミュニケーション、働く、言う、頑張る、聞く

⑤両者の頻出語：*下線は特徴的な単語

思う、考える、いく、良い、仕事、できる、就職、多い、必要、資格、大切、人生、
大学、講義、行動、目標、知る、広い、生活、学ぶ、お金、知識、企業、持つ、感じ
る、できる、自分自身、多く、しまう、欲しい

4-5-2 表現学部（低学年と高学年二文書比較）

①低学年だけの頻出語：

大きい、新しい、CM、明るい、型、コロナウィルス、体験、具体的、在り方、完全、
感染者、私たち、印象深い、煩わしい、増える、行う、テレビ、一般、以前、僕、吹
奏楽部、基本、場面、対策、所属、方法、状況、狂言、私自身、職業

②低学年の頻出語：

キャリアデザイン、無い、多く、インターンシップ、企業、できる、しまう、参加、
考え方、努力、将来、作る、つける、しれる、変わる、おく、働く、受ける、いける、
伝える、取る、向ける、変える、選ぶ

③高学年だけの頻出語：

キャリア、強い、うまい、デザイン、会社、思考、経験、続ける、お金、苦手、たま
りやすい、もったいない、よい、低い、住みやすい、多い、少ない、広い、欲しい、
深い、狭い、美しい、近い、難しい、見える、流す、磨く、言う、与える、送る

④高学年の頻出語：

良い、意見、就職活動

⑤両者の頻出語：*下線は特徴的な単語

いく、考える、いい、思う、仕事、できる、就職、資格、授業、理解、行動、学ぶ、
今後、知る、感じる、持つ、目指す、行く

4-5-3 低学年（全学部と表現学部二文書比較）

①全学部だけの頻出語：

難しい、多い、楽しい、キャリア、うまい、嬉しい、深い、必要、様々、大切、よい、広い、公認心理師、情報、生活、知識、悪い、欲しい、美味しい、長い、一番、客観、経験、決める、くい、上手い、人間らしい、厳しい、取りやすい、少ない

②全学部の頻出語：

授業、将来、選択肢、目標、大学、講義、人生、持つ

③表現学部だけの頻出語：

特になし

④表現学部の頻出語：

大きい、インターンシップ、CM、明るい、企業、多く、型、しまう、できる、為、理解、言葉、つける、コロナウィルス、完全、作る、印象深い、煩わしい、体験、具体的、努力、在り方、感染者、私たち、関係、行う、増える、しれる、変わる

⑤両者の頻出語：*下線は特徴的な単語

キャリアデザイン、いく、いい、思う、考える、新しい、良い、無い、できる、仕事、就職、行動、資格、職業、考え方、知る、学ぶ、先生、感じる、環境、一つ、社会、身、選択、面接、おく、受ける、見る、わかる、行く

4-5-4 高学年（全学部と表現学部二文書比較）

①全学部だけの頻出語：

新しい、就活、場合、楽しい、高い、行う、すごい、ほしい、悲しい、辛い、つく、取れる、始める、かなしい、からい、しづらい、とてつもない、働きやすい、壊れにくい、大きい、怠けやすい、恥ずかしい、早い、浅い、疲れやすい、程遠い、親しい、遠い

②全学部の頻出語：

必要、大切、将来、目標、働く、生きる、いける、取る、聞く、就く、付ける、積む

③表現学部だけの頻出語：

特になし

④表現学部の頻出語：

強い、いい、意見、うまい、思考、狭い、難しい、心、自信、課題、たまりやすい、もったいない、よい、低い、住みやすい、深い、無い、美しい、近い、修得、子供、学生、生き方、自律、見える、流す、磨く、進む、与える、送る

⑤両者の頻出語：*下線は特徴的な単語

良い、キャリア、考える、思う、いく、仕事、デザイン、就職、経験、できる、就職活動、資格、会社、授業、多い、人生、上、自分自身、そのため、お金、今後、自ら、

キャリアデザイン、学ぶ、生活、行動、続ける、少ない、広い

4-5-5 講義で大切だと思ったキーワード

最終レポートの設問に、「講義で大切だと思ったキーワードを3個挙げよ」、も加えているので直近のキャリアデザインA（高学年向け、2022年）の結果を代表例として報告する。

けりはいの法則（筆者のオリジナル、エントリーシート作成・面接の極意）、リーダーシップ、コミュニケーション、ワークライフバランス、マインドフルネス、意思決定、自己分析、リーダー不要論、幸せ4因子、ポジティブ心理学、の順であった。

毎回講義最後に著名人の名言等を紹介しているが、キーワードの中にこれを挙げた学生がそれぞれ2名ずついた。「いまの自分を基準にするな。未来には想像を超えた自分がいる」、「何かを得ることは、何かを失うことかもしれない」。R.ケネディの「国家が何をしてくれるかではなく、あなたが何をできるかを問うて欲しい」を挙げた学生がおり、選んだ理由として、いま自分ができることは何かを考えるきっかけになったと述べている。また「キャリアは自分自身の生き方を磨いていくこと」（筆者の口癖）を1名が挙げた。

また、慶應大学・伊庭崇教授の研究会で「学生自身の評価と教員の評価はほぼ一致する」があり、検証の意味合いで最終レポートの設問に「この講義を通じてあなたの成長度合いを5点満点で評価し、理由を述べよ」を加えているが、結果は3.82であった。点数をつけられない学生が3名いたが、概ねコミュニケーション能力の向上とキャリア意識を挙げた。

5. 考察

分析の素材が成績評価を伴う最終レポートのため、ある種のバイアスがかかっている。ただ講義終了時に言語化することによって学生たちに意識化させることができたのではないか。表現学部の特徴（具体的な目標がある、感性が豊か、など）を表出した意義もある。

Frank（1939）が「時間的展望」で述べた、過去を意味づけ、未来を構想し、現在を考える。キャリアデザインは将来を意識することで現在何をすればいいのかを考えることに意味がある。

大学のキャリア教育の有効性は大学時代には感じられず、社会に出て3年くらいしてから、と言われてきたが、果たしてそうなのか。先に取り上げた濱中（2016）は面接で文系学生に学業を問う面接官が少ないから、という面接官自身の問題点を指摘している。文系学部が多岐にわたる傾向に触れ、面接官＝企業側の問題を指摘している。面接で企業が学生の資質・能力を比較する場合、4年間をガクチカ（学生時代に一番頑張ったこと）で問う傾向はいまだ続いている。

本稿では低学年、高学年で自らのキャリアデザインを問うことで、学生時代の変化に注目した。キャリア教育と専門教育・学生生活との接続についてより深く調査・分析ができた

ければその有効性は問えないのではないか。

児美川（2013）が狭すぎるキャリア教育として指摘した、焦点が職業や就労だけに当たっている、取組が学校教育全体のものになっていない（教育課程で外付けの実践）が10年経ったいまも解消されたとはいにくい。

溝上（2022）は大学4年間、社会に出て3年目のパネル分析を行っているが、大学時代に伸ばした他者理解力、コミュニケーション・リーダーシップ力、計画実行力、社会文化探求心のいずれの指標も社会に出てから一気に下がると報告している（表1）。このリアリティショック現象をどう補えるのか、社会への移行を学生時代にどう意識させるのかがキャリアデザインの本質である。改めて、さらなる講義の工夫と、他部門（例えば、学部・学科、キャリア支援室）との連携強化を模索し続けたい。

表1 資質・能力の推移

	高2	大1	大2	大3	大4	社3	大4⇒社3
他者理解力	3.92	4.01	3.99	4.11	4.19	3.30	▲0.89
コミュニケーション・リーダーシップ力	3.85	3.90	3.92	4.03	4.11	3.18	▲0.93
計画実行力	3.69	3.74	3.84	3.92	3.98	3.03	▲0.95
社会文化探求心	3.46	3.48	3.68	3.72	3.77	2.87	▲0.90
全体平均	3.73	3.78	3.86	3.94	4.01	3.10	▲0.92

注：溝上報告では、高クラス・中クラス・低クラスのそれぞれを分析しているが、ここでは全クラス平均を扱うべく筆者が改変した。また、大卒で捉えるため最終行に全体平均を、右端に大学4年から社会人3年目の変化を加筆した。

Google社のProject Oxygen（2019）が分析4階層として挙げた、記述的分析（現状の記述）、診断的分析（因果関係の推論）、予測分析（予測）、処方的分析（最適解の決定）の4ステップのうち、まだ第一段階との認識がある。本稿では、インタビュー調査がなされていないが、今後パネル分析を通して有効性を調査していきたい。

6. 参考 シラバス

6-1 低学年向け キャリアデザインB

テーマと到達目標

「キャリア」とはライフ＆ワーク、「デザイン」は設計。大学生活を有意義に過ごすため、自分を知り、社会を知り、自ら考え、行動できるキャリア自律を目指します。毎回リフレクションペーパー（講義の感想等）を書き続けることで「表現力」は格段に上達。最新のキャリア理論から社会情勢まで、正解のないテーマへの考察を通じて課題発見力、主体性、創造性が身に付きます。修了時には自身のキャリアポートフォリオが完成します。

概要

講義とグループディスカッション（ときにはグループワークも）を併用し、内省と発信を促します。内的キャリア（自身の内面、心理学）と外的キャリア（外部環境、労働経済学）のなかで自身のキャリアをどうデザインしていくか考察し続けます。お金の知識も必要になりますので、生涯賃金、社会保障や税についても触れます。自身を取り巻く環境の変化、そこに生きる多様な人々への理解も深め、ダイバーシティ実現に何が必要なのか、そして自分の人生はどうありたいのかを、特にこれからの学生生活をどう過ごすのかを考えるプロセスにし、キャリアビジョン（長・中・短期目標）を明確化していただきたいと考えます。「他人事」ではなく「自分事」に。

オリエンテーション（IKIGAI、自己効力感）／自分のトリセツ／自身を取り巻く環境の変化／給与明細の見方／知っておきたい労働法／業界研究（公務員を含む）／企業分析のポイント（ESG等）／アサーティブ・コミュニケーション／多彩な友人（外国人、障がい者、LGBTQ）／エントリーシート の書き方／面接での留意点／インターンシップの意義（社会人基礎力）／ポジティブ心理学／セルフコーチング（OSCAR）／キャリアデザイン構想

6-2 高学年向け キャリアデザイン A

テーマと到達目標

「キャリア」とはライフ&ワーク、「デザイン」は設計。就活に合わせたスケジュールになりますが、就職はゴールではなくスタートです。100年人生をどう生きるか、キャリア自律を目指します。毎回リフレクションペーパー（講義の感想等）を書き続けることで「表現力」は格段に上達。正解のないテーマへの考察を通じて課題発見力、主体性、働きかけ力が身に付きます。修了時には自身のキャリアポートフォリオが完成します。

概要

講義とグループディスカッション（ときにはグループワークも）を併用し、内省と発信を促します。就職活動に必須の自己PR、志望動機、面接の構造を理解し、自ら表現できるようにします。内的キャリア（自身の内面、心理学）と外的キャリア（外部環境、労働経済学）のなかで自身のキャリアをどうデザインしていくか考察し続けます。お金の知識も必要になりますので、生涯賃金、社会保障や税についても触れます。自身を取り巻く環境の変化、そこに生きる多様な人々への理解も深め、ダイバーシティ実現に何が必要なのか、そして自分の人生はどうありたいのかを考えるプロセスにし、キャリアビジョン（目標）を明確化していただきたいと考えます。

オリエンテーション（IKIGAI、自己効力感）／自己PRの仕方／志望動機で求められること（企業分析）／グループワーク（合意形成）／面接対策（インタビュー技法）／多様な働き方（兼業・副業・複業）／パーソナルファイナンス／働く人の労働法規／意思決定のメカニズム／コミュニケーション技法／マインドフルネス／ハラスメントと人

権（キャリア権）／リーダーシップとフォロワーシップ（組織での役割）／MBO（目標管理）と MBB（信念管理）／キャリアデザイン構想

——参考文献等

児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房、2013年、p.44

中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』、2011年

濱中淳子『大学教育無効説をめぐる一考察』経済産業研究所、2016年、p.9, 16

本田由紀『文系大学教育は仕事の役に立つのか』ナカニシヤ出版、2018年、p.40

溝上慎一『学校と社会をつなぐ調査・最終調査分析報告』河合塾グループサイト、2022年

宮内正臣、小名木智宏『就職の家庭教師』マガジンハウス、2012年、p.84

Frank, L. K. 1939 Time perspectives “Journal of philosophy” 4, pp.293-312